














































1. 景気動向

今回の調査によるD・I値（好転と回答した数から悪化と同等した数を引いた値）は、卸売業で景気の回復感が見られ、製造業とサービス業は前期から横ばいで推移しているが、建設業と小売業で悪化しており、特に小売業のマイナス数値が大きくなったことが顕著で、業種間にばらつきはあるものの、全業種で経営上の問題点のトップに「需要の停滞」があげられていることから、依然として当市の景況は厳しい状況が続いている。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		
	10~12月	1~3月	10~12月	1~3月	10~12月	1~3月	10~12月	1~3月	10~12月	1~3月	
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	
売上高	 28	 19	 21	 21	 0	 54	 51	 43	 34	 34	
採算	 48	 38	 27	 23	 36	 54	 40	 40	 31	 34	
資金繰り	 23	 28	 17	 18	 9	 9	 37	 40	 17	 17	
業況	 38	 24	 26	 23	 0	 54	 48	 47	 27	 32	
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		製品ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		利用料金の低下・上昇難	
業種別 コメント	<p>前期に比べ業況は、20ポイントの大幅なマイナス数値となった。前回は水害等による緊急受注も影響して若干改善の兆しが見られたが、景気低迷からくる民間需要の停滞に加えて、公共事業の大幅な減少が景況悪化に拍車をかけていると思われる。来期の見通しは、わずかながら上昇するとの期待感をもっているが、請負単価の低下を要因に採算は悪化すると予測しており、厳しい経営が続くものと予想される。</p>		<p>前回調査ではD・Iのマイナス値はやや減少し、景況の悪化は底をついた感が見られたが、今回はほぼ横ばいで推移している。しかしながら、依然業種間、企業間の格差は大きく、製造業全体が好転に向かっているとは言いがたい状況である。また、経営上の問題点として「製品ニーズの変化への対応」が上位にあげられており、その対応に苦慮していることが窺える。来期も横ばいに推移するとの見方が多く、厳しい状況は変わらないものの、急激に悪化することはないとの見方をしている企業が多い。</p>		<p>今期は年末商戦の影響からか、全体的に若干の改善傾向がみられた。しかしながら、採算面では依然として改善傾向は見られず、価格面での企業間競争は続いていると思われる。また、来期への見通しでは、今期の売上・業況回復の影響で、資金繰りに対して若干の余裕が現れている。それとは対照的に売上、採算、業況では先行きへの明るさはみられず、小売・サービスの業況に回復が見られにくいこともあり、本格的な業況の回復にはもう少し時間がかかると思われる。</p>		<p>クリスマス・年末商戦に期待していたが、暖かい日が続く雪がなかなか積もらないこともあり、実用品を中心に冬物商品の売れ行きが思わしくなく、消費者マインドは今ひとつ動きが鈍い。採算や資金繰りは少しずつ改善傾向にあるものの、売上高や業況は悪化しており、経営上の問題として需要の停滞を1位にあげている。</p> <p>1~3月期は、稼働日数も少ないなど季節的要因から厳しい見通しが続きと予想しており、魅力ある店づくり、品揃えが今後の課題と思われる。</p>		<p>地震の影響により、他地域からの人的動きがなくなるなど個人消費が冷え込んだことで、クリスマス・年末商戦では低調な動きとなり、特に旅行業関係者が大きな影響を受けた。消費者の利用頻度の減少や利用料金の低下などにより、忘年会などの飲食関係の利用も思ったほど伸びず、一般的に横ばい状態で推移している。</p> <p>今後の動向については、降雪量が人の出入を大きく左右することから、まだまだ厳しい見方が伺え、消費者の視点に立った独自サービスの構築が今後の課題と思われる。</p>		

* 表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調 (50 D・I)	好調 (25 D・I<50)	まあまあ (0 D・I<25)	不振 (25 D・I<0)	きわめて不振 (D・I<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。